

社会福祉法人マザアス 特別養護老人ホームマザアス日野 (東京都日野市)

特養での技術を活かした食事をボランティアが365日届ける

マザアス日野では、日野市社会福祉協議会の委託事業として、市内のほぼ全域に食事を届けている。食形態・食べやすさ・好き嫌いにまで細かく対応している特養の技術が、お弁当の数の増加につながっている。

配達員募集のピラで集まった熱意あるボランティア

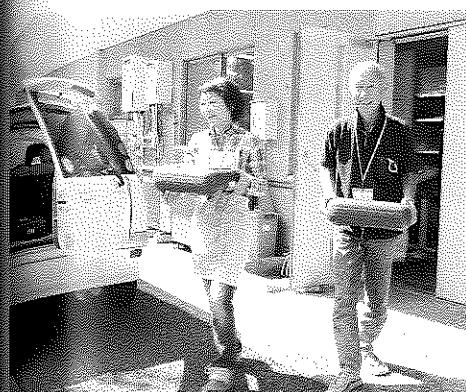
特別養護老人ホームマザアス日野の栄養課の通用口には、午前10時半を過ぎると、数台の自家用車がトランクを大きく開けて待ち構えている。

「お願いしま〜す」という調理師の声に、「はい」と答える配達員(ボランティア)5人が、お弁当を次々と自分の車に積み込んでいく。「記者さん、はや

く写真撮らないと、みんな配達に行っちゃうよ!」きびきびと運ぶ姿に、にぎやかな声。気がつけば、1台はすでに走り出していた。

10時46分。ボランティア3年目の石井百恵さんの車に便乗させてもらい、マザアス日野を出発。石井さんはこの日、11軒のお宅に12食を届ける(1軒は夫婦のため2食)。最後の家には、12時前までに届けるのが目標だ。

Kさん宅に到着。車道の脇に車を止



自家用車にお弁当を積み込むボランティア。1日約60食を5〜6人で配る



お弁当が届く時間を見計らって、玄関先で待っている利用者もいる。ボランティアとの会話が何より楽しみなのだという

め、まずは手指をアルコール消毒する。

トランクに積んだ弁当箱のフタの食札を見て、該当するお弁当を取り出し、中身を確認。容器のロックが固くて外せない高齢者もいるので、このときに外しておく。アパートの2階に上り、「Kさん、おはようございま〜す」と石井さん

さんが声をかけながらドアを開けると、すでにKさんは玄関にいた。車が止まる音や足音で、お弁当の配達が来ることがわかったのだ。「あなた、いつも元気でいいわねえ」そう言ってもらえると、うれしいです。そんな会話をしながら、お弁当を渡す。そして、チケットを受け取る。

「お弁当は安くておいしくて、本当にいいのよね。夜もあると、もったいのだけど!」「ありがとうございます。そう伝えておきますね。また明日、お届けします!」

石井さんは、昨日届けたお弁当の空箱を引き取り、笑顔でKさん宅を後にした。車に戻った石井さんは配達チェッ

ク表のKさんの欄に、声をかけたときの様子「良」に○を記入し、こう話した。「もっとお話を聞いてあげたいのですが、元気でいらっしやることを確認するのが精一杯ですね」

石井さんは、家事の合間に何かできないかと考えていたところ、知人からの紹介で配食のボランティアを知ったという。「配達はとても楽しいですよ。自分の親よりも上の世代の方と接することになるので、言葉遣い一つにしても勉強になりますね。あまり感情移入をしすぎてもいけないとは思いますが、元気な姿を見るとうれしいですし、心配になるときもあります」

細い路地を入ったり、時には高層マンションに届けたり、玄関ではなく縁側から入る家もある。合間に、今日は配達しない家から空の弁当箱を回収してくる。

11時55分。この日最後の家に到着すると、利用者のMさんが玄関近くの廊下で笑顔で待っていた。

● 配食サービスデータ	
提供日	1日1回(昼)、365日
提供範囲	東京都日野市全域
1日当たりの配食数	約60食
食形態	常食、きざみ食、ミキサー食、パン粥ミキサーなど、疾病や摂食・嚥下状態により個別に対応
利用者負担額	1食450円